

結晶母

2010年9月号

発行：特定非営利活動法人
テラ・ルネッサンス

発行日：2010年9月15日

「結晶ができる時、最初に生まれる結晶。それが結晶母。結晶母の周りに同じ形をした元素が集まって、ひとつの大きな結晶をつくる。ひとつひとつの結晶は小さくても、結晶母を中心に集まった大きな結晶のネットワークは強く、たくましい！ そんな大事な結晶母の役割を、地球に住むひとりひとりが果たせたら・・・」そんな願いを込めて、名付けました。



修了証書を受け取った3期生の元子ども兵たち【ウガンダ】

理事長・鬼丸昌也のメッセージ

2001年にテラ・ルネッサンスを設立して、10年の節目を迎える今年。さまざまな人との出逢いを振り返ると、感謝の心でいっぱいです。学生時代に活動を始めたので、失礼なことを周囲の皆さんにたくさんしてしまったはずですが、皆様は温かく見守って、支援を続けて下さいました。「すべての生命が安心して生活できる社会の実現」という目的に向かって、これからも関わる全ての人々とともに歩んでまいります。

目次：

カンボジア・ラオス事業報告	23
ウガンダ・コンゴ事業報告	45
あくていびてい・れぼーと	6
ふえいす to ふえいす	7
てらるね手帳	8

貧困層の収入向上に地雷回避教育用うちわ製作【カンボジア】

カムリエン郡プレア・ブット村では、竹製の地雷回避教育用うちわの製作方法を貧困層の村人たちに訓練し、彼らの収入向上に役立てています。この村では多くの竹が自生しており、この竹を利用してうちわを製作し、地雷や不発弾が危険であることを知らせる地雷回避教育のためにデザインされたポスターをうちわに張ります。

この村も多くの地雷で汚染された村でしたが、村の貧困層の多くは、2008年に当会と提携している地雷撤去団体MAGが地雷撤去した土地に家を建てて住んでいます。そのうちの多くは、農民でありながら、農地がない最貧困層の人たちで、国境が目の前のタイへ出稼ぎに行く人たちがほとんどです。このうちわ製作によって、タイへ出稼ぎに行かなくても、何人かの村人たちは収入が得られるようになっています。

村人から買い取ったこの地雷うちわは、他のまだ地雷に汚染された地域に住む村人、特に戦争を知らず、地雷や不発弾のことをあまり知らない子どもたちを対象にワークショップを開き、配る予定です。

うちわを配ることで、地雷の形状を知らせ、地雷被害を減らすことにつながることを期待しています。

2008年～2009年のカンボジアの地雷、不発弾被害の30%が子どもたちで、実際に地雷の危険性を知らずに触ったり、家に持って帰ってきたという例もあります。年中熱帯の暑い気候にも関わらず、うちわが普及しておらず、電気もないカンボジアの農村で、このうちわは日常的に使ってもらえ、同時に地雷、不発弾の危険性を知らせることに有効だと考えています。



うちわを製作するプレア・ブット村の最貧困層の村人

稲の栽培方法ワークショップを開催【カンボジア】

今年初めにお会いしたJICAのバットバン農村地域振興開発計画プロジェクトで駐在されていた稲作の専門家の方から稲の種籾の選別方法を教えてもらい、バヴェル郡サムロン・チェイ村で、ワークショップを6月に実施しました。

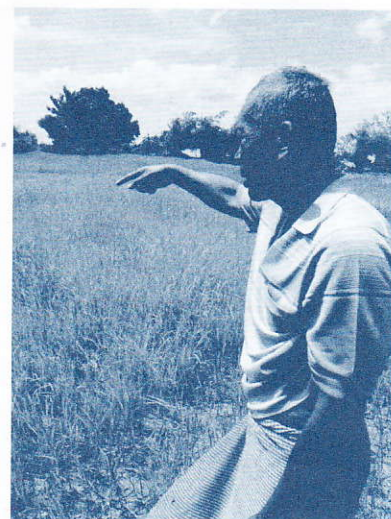
この村では、2008年に穂高小学校、2009年に村につながる道に2本の橋を京都・宇治に本社のある（株）穂高住販様のご支援で建設しました。

カンボジアでの稲作はヘクタール当たりの収穫量が少なく、また不安定です。そのため、この種籾を選別する方法で、収穫量を増やし、さらに安定化させることができると考えています。どこでもある簡単な道具と材料で、誰でもすぐできる方法であるため、貧困地域でも特別準備した道具は、首都のプノンペンで買ってきた温度計ぐらいなものでした。

ワークショップに参加した農家は、実際に自分の田んぼの一部でこの方法を試しており、8月前半に

調査に行ったときには、明らかにこの方法をとらなかった稲との違いがあると村人たちも手ごたえを感じていました。

今後、稲の生育を見守る必要がありますが、「カンボジア一美味しい」と言われるお米の産地バットバン州で、収穫量が上がれば、貧困層の多い農民の収入向上につながると期待しています。



稲の生育状況を説明するサムロン・チェイ村の村人

減らない被害、6ヶ月間で158名死傷

2010年1月～6月までの6ヶ月間で、カンボジアでは158名の地雷・不発弾の死傷者が出ました。1年間の地雷・不発弾被害者数が244名だった昨年の同時期と比較しても、全く被害者が減っていません。7月後半から8月前半にかけても、バタンバン州やプルサット州で立て続けに不発弾被害が起きました。改良した不発弾を川や池に投げ込み、爆発したショックで浮いた魚を採るために不発弾に触っているときに起きた事故でした。これにより、バタンバン州では10歳の男の子が亡くなり、3人が負傷、プルサット州でも、48歳の男性が亡くなり、奥さんと娘さんも怪我をしました。

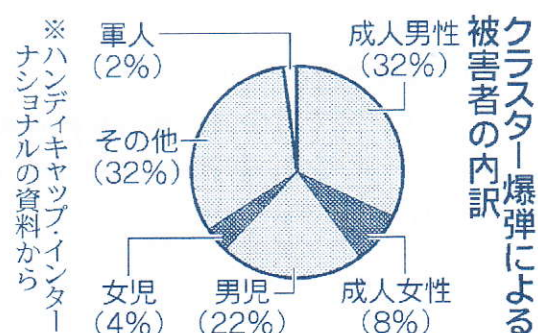
テラ・ルネッサンスでは、1人でも被害者を減らせるよう、下半期も除去支援と村落開発支援の両輪で活動をしていきます。

2010年上半期カンボジア地雷・不発弾被害

8月1日クラスター爆弾禁止条約発効

～最大の原動力は市民、被害者支援は義務～

不発の子爆弾が深刻な被害を生むクラスター（集束）爆弾の使用や製造を禁じる条約が8月1日、発効しました。条約は、クラスター爆弾の開発、移転（輸出入）なども禁止します。これまでに、日本をはじめ、108カ国が署名、38カ国が締結しました。加盟国となった日本は、自国の保有する爆弾の原則8年以内の廃棄や被害国の除去支援だけでなく、被害者支援も義務となります。ただ、不発弾率が極めて低い厳しい規格に合った新型爆弾は規制から外れたほか、大量のクラスター爆弾を保有する米国、ロシア、中国は未加盟のままで、加盟国の拡大が当面の大きな課題となります。



ラオス、シエンクアン県のクラスター爆弾の被害者の一人。子どもの時の事故で友達2人を亡くし、自身も左目を負傷したサイカムさん。

オタワ条約締結に寄与し、ノーベル平和賞を受賞したジョディ・ウィリアムズ氏は「軍縮を進める最大の原動力は市民。批判が強まれば、政治は必ず動く」と強調します。日本は、不発弾除去や被害者支援について、対人地雷での支援事業を発展させて取り組むようです。

日本は98～09年度末までに▽地雷・不発弾の除去▽被害者支援▽被害回避のための教育——で計約400億円を支援しました。毎年、米、欧州連合（EU）に次ぐレベルの上位支援国です。除去が総額の7割程度と大きいですが、テラ・ルネッサンスも加盟するNGOのネットワーク、NPO法人「地雷廃絶日本キャンペーン」は「一番足らない犠牲者支援を進めてほしい」と政府に主張しています。

今後も市民の皆さんの強い関心と力が政府を動かします。テラ・ルネッサンスが活動するラオス・カンボジア・ウガンダもクラスター爆弾の被害国。テラ・ルネッサンスでは、撤去される不発弾の8割がクラスター爆弾の子爆弾といわれるラオスのシエンクアン県での除去支援を継続し、犠牲者支援を開始する準備をしているところです。

3期生の元子ども兵が自立しました！【ウガンダ】

これまで支援をしてきた元子ども兵たち（第3期生）が無事、卒業しました。多くは子ども時代に誘拐された元少女兵で、非常に長期にわたり反政府軍に捕らえられていました。平均すると誘拐された年齢は11.1歳で、9.4年間も反政府軍に拘束されていました。

こうした状況で受け入れた当時は、過去の経験を思い出すこともしばしばあり、授業にも集中できず、教室を飛び出してしまいう生徒もいました。また、一般社会で生きる知識や技術もなく、ほとんどの生徒は収入がゼロでした。

しかし、当会センターでの職業訓練や基礎教育などを経て、今では平均すると約8,000円の月収を得ることができるようになっています。この額は現地の小中学校の教員や警察官の初任給などとほぼ同じ水準です。そして、半年以上この収入は安定しており、中には、自分や家族の衣食住だけでなく、親戚の生活を支えたり、近隣の貧しい住民が困っている時に助けてあげている生徒もいます。

また、受け入れ当時、近隣住民から元少女兵だという理由で差別や偏見を受けて周囲との関係をうまく築けない生徒もいましたが、今では全員が家族以外に相談できる友人がコミュニティにでき、村社会での相互扶助（助け合い）活動にも参加しています。



卒業式の様子



修了証書を受け取った3期生の元子ども兵たち

ある元少女兵の歩み

ジャッキー（仮名）は11歳の時に反政府軍（LRA）に誘拐されてから、12年間兵士として従軍させられていました。その間、紛争下で厳しい生活を強いられてきましたが、彼女にとっての唯一の希望は、誘拐される前に過ごした家族と再会することでした。

しかし、村に帰還後、その家族が亡くなっていることを知りました。父親と兄弟の1人は、LRAによって殺害されていました。家族の死に対するショックは非常に大きく、支援を始めた頃は、2人が殺されてしまったことばかりを思い出していました。また、近隣住民との間でも、子どもがいじめられるなどして、心を痛めていました。

そんな状況の中で支援を開始し、技術の習得には非常に苦労していました。しかし、最終的には、基礎教育、洋裁の授業は合格ラインに達し、手工芸の授業では好成績をおさめることができました。

プライベートでは、帰還後、新たに出会った男性と再婚し、子どもも授かりました。支援を始めた頃は、流産を経験したことで、子どもを産むことに対して恐怖心を持っていた彼女ですが、夫の支えもあり、今は元気に子どもを育てています。そして、今では、月7,500円程度の収入を得て、自立することができています。また、パートナーの存在が彼女にとって精神的に支えとなり、生まれたばかりの赤ん坊には「本当に幸せになって欲しい」と夫とともに語りかけている彼女の姿がとても印象に残っています。

マラリア予防の蚊帳を届けることができました！【コンゴ】



蚊帳を受け取った受益者とその子どもたち

コンゴ東部では長年の紛争の影響で、今も住民たちは不安定な生活を余儀なくされており、事業実施地域の南キブ州カロンゲ区域では、兵士による食料の略奪や女性への性的暴力の被害が今も続いています。また、医薬品や医療機関へのアクセスが限られた状況にあり、多くの人々（特に5歳未満の乳幼児）が、予防または治療可能なマラリアや下痢、栄養失調などによって命を落としています。現在、同区域には1つの病院と16の診療所があり、人道援助団体がワクチンの接種など医療支援を行っていますが、依然、多くの命が予防可能なマラリア（死亡要因の16%）や栄養失調（死亡要因の25%）が原因で亡くなっています。

同事業では、現地の病院や診療所、他の援助機関らとも協力しながら、マラリア予防のための啓発活動や蚊帳の配布、基礎健康教育など、受益者及びその家族が健康を維持するために必要な支援活動を行っています。今年5月には、政府軍や反政府軍の兵士によって性的暴力の被害を受け、5歳未満の子どもを抱えている女性を対象に、マラリア予防の啓発活動を行い、300家族に蚊帳を届けることができました。

溶接技術の職業訓練が始まりました【コンゴ】



溶接用具を手に持つ元子ども兵たち

カロンゲ区域では、都市部に出稼ぎに行くくらいしか現金収入を得る方法がなく、低賃金で鉱物資源の採掘や日雇い労働に従事する以外は、ほとんど雇用の機会もありません。また、こうした収入源は不安定であるだけでなく、不公平な条件で、外部のビジネスマンや富裕層（または武装勢力）に搾取されることにもつながっています。そのため、これまで、元子ども兵と紛争被害者が安定した収入源を確保するために、衣服や家具など地元住民にとってもニーズの高い製品やフェアトレード商品を制作するための技術訓練を行ってきました。

そして、今年の4月に、毎日新聞大阪社会事業団様からの支援により、溶接技術の職業訓練資材を購入し、6月から元子ども兵や紛争被害者を対象に技術訓練が開始されました。同区域では、溶接加工をする業者は全くなく、技術者もほとんどいない状況なので、現地住民たちにとっても非常にニーズの高い職業技術です。今後、技術を習得した元子ども兵たちが地元住民の家屋や農機具の修理などのサービスを開始していく予定で、元子ども兵の社会復帰とともに現地のコミュニティや人々の生活再建につなげていきたいと考えています。



溶接技術の習得に励む元子ども兵

京都流議定書2010

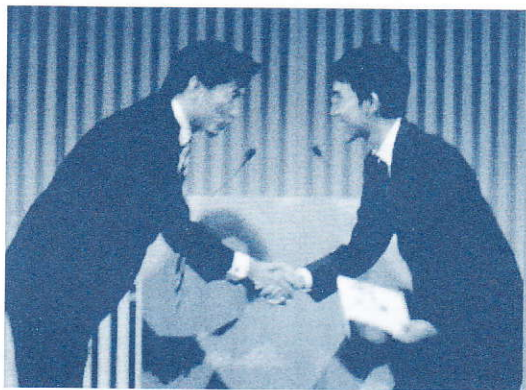
7月23日から25日までの3日間、京都市東山区にあるハイアットリージェンシー京都にて、株式会社ウエダ本社(以下、ウエダ本社)様主催『京都流議定書2010』というイベントが行われました。今年で3回目を迎える本イベントには、著名な経営者の方々が集まり、講演やトークセッション、また環境問題に取り組む学生団体の発表などが行われ、全国各地から経営者の方々をはじめ、多くの人に参加しました。

ウエダ本社様には、2009年より、使用済みインクジェットカートリッジの回収に積極的に協力いただいています。使用済みインクジェットカートリッジの回収をウエダ本社様の取引先に呼びかけていただくことで、当会の拠点である京都において、使用済みインクジェットカートリッジの回収事業が着実に認知度を高め、拡大しています。

本イベントでは、テラ・ルネッサンスは3日目に登場。ウエダ本社の岡村社長が1年越しの計画で、鬼丸の講演をプログラムに入れてくださいました。テーマは「こうして僕は世界を変えるために一步を

踏み出した」。来場者は100人を超え、これまでに何度も鬼丸の講演に足を運んでくださっている方々から、「鬼丸の講演は初めて」という経営者の方々まで、幅広い層の方々に聞いていただくことができました。講演の冒頭には、ウエダ本社様を通じて集まった使用済みインクジェットカートリッジ回収から得られた総額15万1,060円の寄付金の贈呈が行われました。

NPO業界のみでなく、主に経営者の方々が多く集まる本イベントの講演を通じて、普段は接点のない方々にテラ・ルネッサンスや本事業を知っていただく大きな1日となりました。(よしだ)



寄付金贈呈式にて

アフリカンフェスタ2010

2010年6月12日、13日と横浜赤レンガ倉庫で開催された『アフリカンフェスタ2010』に参加しました。両日とも天候に恵まれ、テラ・ルネッサンスのブースにも多くの方にお越しいただきました。

3年前は「子ども兵」と伝えても、なかなか伝わらないことが多かったのですが、今年は子ども兵の認知度が高まり、「この本読んだことある」と『ぼくは13歳 職業、兵士。』を手にとって、私に話して下さった方もいました。さらには、一緒に来た友人や家族に、子ども兵について、当会のパネルを利用して説明している方の姿を何人も見かけ、認知度の高まりを実感しました。

テラ・ルネッサンスは、2005年ウガンダにて元子ども兵社会復帰支援を開始してから、多くの方に子ども兵の問題を「知ってもらう」ことに努めてまいりました。しかし、これからは、知っていただい

た方々に、子ども兵の問題を「伝えてもらう」段階に変わってきているということはこのイベントの参加を通して、強く実感しました。今後は、「伝えたい」という方が、周りに伝えやすいツールを提供していけたらと思っています。

毎年、多くの気づき、貴重なご縁を提供いただくアフリカンフェスタ。充実した2日間となりました。(くりた)



「頑張らない」チャリティバドミントン大会 開催！

6月12日土曜日、大阪府門真市なみはやドームにて、第4回「頑張らない」チャリティバドミントン大会が開催されました。北は北海道、南は鹿児島から約200名の参加者が集まって、バドミントンの試合を行い、大会参加費を当会のカンボジア事業費に寄付金として充てるというイベントです。今年は347,283円の寄付金が集まりました。このお金は、当会を通じ、カンボジアのバタンバン州にあるプレア・プット村の小学校に寄付されます。寄付金によって、生徒用の机と椅子が提供され、小学校の生徒全員が机を使用して学習できるようになります。

テラ・ルネッサンスも「チーム・テラルネ」として毎年参加しています。毎年1勝を目指して頑張っていました。今年も経験者4人を引き連れ躍進し、リーグ優勝（初級C）を果たしました。

大会主催者である「頑張らないバドミントン研究会」の須田様がこの大会を企画されたきっかけは、実際にカンボジアにラケットを持って行き、子どもたちと一緒にバドミントンをし、彼らの楽しそうな笑顔を見たことだそうです。「国際協力は楽しみながらできる！」という元気なメッセージをいただいたイベントでした。（いながき）



テラ・ルネ インターン紹介



佛教大学文学部3回生の市川真理子と申します。今年4月から回収事業を担当しております。「一人ひとりに未来をつくる力がある」という理念に基づき、私自身も未来をつくる一員として頑張りますので、よろしくお願い致します。

大学院1回生の細見俊です。大学時代からの念願叶って、テラ・ルネッサンスで4月からインターンをしております。多くの素敵な出会い、学びの場であるテラ・ルネッサンスでのインターンを通して成長していきます！

龍谷大学3回生の佐野光平と申します。現在、フェアトレード・物品販売事業担当インターンとして販売促進活動をしております。フェアトレード商品の真の価値を、一人でも多くの方々に伝えていきたいと思っています。

はじめまして。立命館大学3回生の石川あかりと申します。4月からインターンとして書き損じはがき・使用済みインクジェットカートリッジの回収事業を担当しています。皆様の国際協力のお手伝いができるよう頑張りたいと思います。

カンボジアスタディツアー報告会 at 龍谷大学

6月25日、28日の2日、2010年春カンボジアスタディツアー報告会が開催されました。同じ大学である6名が自主的に、そして主体的に準備を進めてくれた結果…来場者はトータルで約80名！ 来場者アンケートを見せてもらいましたが、「報告者の方々の思いが伝わってきた」という意見が大変多かったです。実際、聴いていて、彼らの言葉は胸に迫るものがありました。

「今回、人に伝える難しさや大切さを学びました。ツアーに参加して感じたこと、学んだことを素直に伝えようとメンバーで話し合い、時には行き詰まることもありましたが、同じ思いを持った仲間と一緒に成し遂げることができて本当に良かったです。『終わり』ではなく、ここから『始まり』であると報告会の最後を締めくくりました。これからも私たちは新しい一歩を踏み出していきます！」。

今後も彼らの一歩一歩に関わり続けたい、見守り続けたい…そう思います。（おおき）



テラ・ルネッサンス 設立10周年記念イベント

『ハート to ハート

一届いた心 繋がる笑顔、そして未来』
in ひと・まち交流館 京都

2010年11月6日（土）

テラ・ルネッサンスは今年で10周年を迎えます。これまで活動し続けることができたのも、支援者の皆様のおかげです。

そんな感謝の気持ちを伝えるため、そして今後の更なる活動への一歩として、記念イベントを企画中です。代表の鬼丸をはじめ、駐在員の小川や江角、現地スタッフのトシャも参加し、これまでの10年の軌跡をたどるとともに、今後の10年を考えていきたいと思っています。その他にも、ゲーム、ペーパービーズ体験、スライドショーの上映など、盛りだくさんのイベントとなっていますので、是非お越しください。詳細は随時、公式HPに上げていきますので、そちらをご覧ください。

なお、名古屋（10月30日）並びに東京（10月31日）でも設立10周年記念報告会を開催いたします。こちらにも是非お越しください。（なかやま）

京都地域創造基金 事業指定寄付のご案内

テラ・ルネッサンスは認定NPO法人ではないため、これまでご寄付いただいても、寄付金控除等の税制優遇の対象ではありませんでした。しかし、今年度より、公益財団法人京都地域創造基金を通じてテラ・ルネッサンスにご寄付いただきますと、税制優遇が受けられるようになりました。

詳しい内容をお知りになりたい方は、同封のチラシをごらんいただくか、テラ・ルネッサンス事務局（TEL:075-645-1802）、公益財団法人京都地域創造基金（TEL:075-354-8792 <http://plus-social.jp>）までお問い合わせください。（まきの）

<編集・発行>

特定非営利活動法人 テラ・ルネッサンス

〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町5-23-105

Tel/Fax : 075-645-1802

E-mail : contact@terra-r.jp

<http://www.terra-r.jp/>

